

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第467号 平成25年1月7日

## 巳年に思う

「巳年」とはどんな年なのでしょう。

「巳年」は「蛇年」という事で、余り良い印象を持たれない方もいると思います。そこで今日は、「巳年」について考えてみたいと思います。

まず、なぜ「巳」は「蛇」なのか、そこから辿ってみる事にします。

元々十二支は動物とは何の関係もないのですが、文字を知らない庶民にも暦を受け入れ易くする為に、子、丑、寅などにそれぞれの動物を当てはめて表現するようになったといわれています。例えば、「子（ネ）」はネズミの「ネ」、「卯（ウ）」はウサギの「ウ」という具合に、それぞれ動物を当てはめています。しかし、「巳（ミ）」がどうして「蛇（へび）」になるのか、考えてみると不思議ですね。そこで、私も調べてみました。

我が家の書棚で埃を被っている本に、南方熊楠氏がお書きになった「十二支考」という本があるのですが、その中で蛇についてこう書かれています。

「和名抄に蛇は和名倍(へ)美(み)、一はいわく久知奈波(くちなは)、日本紀の私記にいわく乎(お)呂(ろ)知(ち)とあり今(いま)俗(のよ)には、小さく尋常(よのつね)なるを久知奈波といい、やや大きなるを幣毘(へび)といい、なお大きなるを宇(う)波(は)婆(ば)美(み)といい、きわめて大きなるを蛇(じゃ)というなり。」と記載されています。

その昔「蛇」は「へみ」と呼ばれていたのですね。つまり、「へみ」を略して「み」と呼び、「巳（ミ）」は「蛇（ミ）」となったという訳です。

因みに、大酒のみの事を「うわばみ」といいますが、幾らお酒を飲んでも酔い潰れない大蛇って、どんな大きさなのでしょうね。

蛇は、見ているだけで気持ちが悪い、恐ろしいと思っている人は多いと思います。中には蛇をペットにして飼っている人もいますが、余程の変わり者（失礼）という印象で、想像するだけでもザワッとします。

しかし、実をいうと蛇というのは昔から縁起が良い生き物とされて来ました。知恵や財産をもたらす神様として崇められており、七福神の一つ「弁財天」は蛇の化身でもあります。また、「蛇」は脱皮しながら成長するところから強い生命力を感じさせ、再生のシンボルでもあるのです。

一方、「巳」は、蛇が地中から出る形を現す象形文字で、一説には胎児を表すともいわれています。また、十二支で「巳」は、植物に種子が出来始める時と考えられており、起こる、始まるという意味も持っています。

こうした事から、巳年というのは、何か新しい事が起こったり始まったりする年といっても良いでしょう。

戦後は5回、巳年がありました。

1953年	スターリン死去
1965年	アメリカによる北爆の本格的開始
1977年	第2次オイルショック
1989年	昭和から平成へ
2001年	アメリカ同時多発テロ

上の表は、巳年に起こった出来事のほんの一部に過ぎませんが、これを見ても分かるように、「巳年」には国内外でその後の社会を変えていく大きな出来事が起こっています。

こうして見ると、巳年の今年もまた、社会的に大きな変化が現れる年になるのではないのでしょうか。

世の中には変化を嫌う人がいますが、私はむしろ、その変化を旨く捉えて飛躍の足掛かりにすべきだと思っています。勿論、その為には、変化に対して能動的に向き合っていくだけではなく、我々自身が旧来の発想や仕組みから脱皮して行く必要がある事は、いう迄もありません。（塾頭：吉田 洋一）